

自信の無さ

太宰治

本紙（朝日新聞）の文芸時評で、長与先生が、私の下手な作品を例に挙げて、現代新人の通性を指摘して居られました。他の新人諸君に対して、責任を感じましたので、一言申し開きを致します。古来一流の作家のものは作因が判然はつきりしていて、その実感が強く、従つてそこに或る動かし難い自信を持っている。その反対に今の新人はその基本作因に自信がなく、ぐらついている、というお言葉は、まさに頂門ちやうもんの一針いっしんにて、的確なものと思ひました。自信を、持ちたいと思ひます。けれども私たちは、自信を持つことが出来ません。どうしたのでしよう。私たちは、決して怠けてなど居

りません。無頼むらいの生活もして居りません。ひそかに読書もしている筈であります。けれども、努力と共に、いよいよ自信がなくなります。

私たちは、その原因をあれこれと指摘し、罪を社会に転嫁するような事も致しません。私たちは、この世紀の姿を、この世紀のままに素直に肯定したいのであります。みんな卑屈であります。みんな日和見ひよりみ主義であります。みんな「臆病な苦勞」をしています。けれども、私たちは、それを決定的な汚点だとは、ちつとも思いません。

いまは、大過渡期だと思えます。私たちは、当然、

自信の無さから、のがれる事は出来ません。誰の顔を見ても、みんな卑屈です。私たちは、この「自信の無さ」を大事にしたいと思います。卑屈の克服からでは無しに、卑屈の素直な肯定の中から、前例の無い見事な花の咲くことを、私は祈念しています。

底本…「太宰治全集10」ちくま文庫、筑摩書房

1989（平成元）年6月27日第1刷発行

1998（平成10）年6月15日第4刷発行

底本の親本…「筑摩全集類聚版太宰治全集」筑摩書房

1975（昭和50）年6月～1976（昭和51）年6
月

初出…「東京朝日新聞」

1940（昭和15）年6月2日

入力…増山一光

校正…土屋隆

2006年1月13日作成

青空文庫作成ファイル..

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫
(<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、
校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで
す。